

復元骨格、ついに公開！

ヌマタネズミイルカシンポジウム ～沼田の「世界一」に迫る～



ヌマタネズミイルカの新たな復元骨格と復元画が完成したことを記念したシンポジウムが5月7日（土）にほろしん温泉ほたる館で開催されました。町内外から約80名の化石ファンが集まり、新たに制作した「令和の復元骨格」を監修した福井県立恐竜博物館副館長の一島啓人氏らが講演しました。

ヌマタネズミイルカは当時秩父別中学校の教諭だった山下茂氏が一九八五年に幌新太刀別川で全身の化石を発見したことから研究が始まり、二〇〇〇年には一島啓人氏、木村方一名誉館長がヌマタネズミイルカの研究成果をまとめた論文を世界に発表しました。その後、二〇一六年にクリーニングの完了した化石の中から2体目、3体目となる化石標本を田中嘉寛特別学芸員が再発見し、論文を発表しました。二〇一八年には、北海道天然記念物に指定され、翌年から全身骨格のレプリカ制作が始まりました。3年に及ぶレプリカ工房職員の努力が詰まっており、一島啓人氏の監修による最新の研究

を基に復元骨格を見直した結果、肩甲骨の位置を前方に動かし、肋骨の向きを尾の方向に向けるなど変更を加え、全長も長くなっています。また、復元骨格の姿は、「昭和の復元骨格」が直立している姿であったことに対し、潜水している躍動感のある様子に復元しました。

令和、昭和の復元骨格は化石体験館で展示されていますので、是非ご覧ください。



サマージャンボ宝くじの収益金は、市町村の明るく住みよいまちづくりに活用されています。



田中 嘉寛 氏

沼田町化石館特別学芸員。大阪市立自然史博物館学芸員。専門は海生哺乳類の古生物学。ヌマタネズミイルカの第2、第3標本の論文発表を行う。



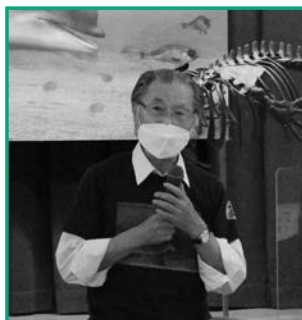
新村 龍也 氏

足寄動物化石博物館学芸員。3D CG ソフトを用いてデジタル生態復元画を制作し、国内外の博物館や研究者から注目を集めている。



一島 啓人 氏

福井県立恐竜博物館副館長。専門は海生哺乳類の古生物学。木村名誉館長と共に、2000年にヌマタネズミイルカの命名と論文発表を行う。



木村 方一 氏

沼田町化石館名誉館長、北海道教育大学名誉教授。ヌマタネズミイルカ、タキカワカイギュウなど道内各地の化石発掘に関わる。

ヌマタネズミイルカ発見と沼田町の化石の歴史

1985 年 6 月 山下 茂氏 幌新太刀別川で歯クジラ発見

7 月 沼田町教育委員会・町内理科サークル教員で発掘

木村方一と古沢仁氏（滝川市郷土館学芸員）で発掘指導

以後、代々の協力者によってクリーニングとレプリカ作製が進行した。

9 月 沼田歯クジラ会設立

1989 年 ヒゲクジラ類 ①発見者：松原利浩氏（クリーニング中）

②発見者：大堀三郎氏 新種のヒゲクジラ（ヌマタナガスクジラ）

Miobalaenoptera numataensis（マイオバラエノプテラ ヌマタエンシス）

1992 年 自然史研修室を開設し、初代学芸員 古沢仁氏 着任

山下氏発見の化石は通称「ヌマタネズミイルカ」と呼び、一島啓人氏に研究を託した。

1999 年 町内に沼田町化石館を開設、2 代目学芸員篠原暁氏着任・ホームページ公開

2000 年 9 月 研究結果が Journal of Vertebrate Paleontology 20 巻 3 号に掲載

（HIROTO ICHISHIMA and MASAICHI KIMURA）

***Numataphocoena yamashitai* と正式に命名し世界に向けて発表した。**

化石特別展「太平洋でつながる進化の道」ほろしん温泉ロビーにて開催。

日本地質学会第 101 回記念国際シンポジウム「北太平洋の海棲哺乳類化石～海に帰ったほ乳類～」ほろしん温泉ほたる館にて開催。

2008 年 7 月 ほろしん温泉向かいに沼田町化石体験館 開設

2016 年 田中嘉寛特別学芸員がクリーニングの完了した 2 つの化石標本を

Numataphocoena yamashitai と同定した。

2 体目は耳骨で、3 体目の頭蓋は一島氏と共著で報告した。

2018 年 北海道天然記念物に指定

①全身骨格 ②新属新種 ③町おこし町民愛活動 が評価されて指定された。

2019 年 全身骨格のレプリカ作製開始

2022 年 「令和の復元骨格」完成

＜木村方一氏 ヌマタネズミイルカに至る北空知の脊椎動物化石発見と沼田町の活動より＞